



今月のことば

## Words of the Month

### 引き際の美学

日本弁理士会副会長

千且 和也

#### 1. はじめに

「坂本さァ」

「え？」

「この表を拝見すると、当然土州から出る尊兄の名が見あたらんが、どぎゃんしもたかの」

「わしの名が？」

「わしァ、出ませんぜ」

「あれは、きらいでな」「窮屈な役人がさ」

「窮屈な役人にならずに、お前さァ何バしなはる」

「左様さ」「世界の海援隊でもやりましようかな」

司馬遼太郎作の「竜馬がゆく」からの引用です。

#### 2. 会務活動

さて、4月から副会長として日本弁理士会の会務活動に携わり、もう少しでその半分である9月が終わろうとしています。ここ数年、執行役員として会務活動に携わってきましたので、その執行理事の2倍くらいの忙しさだろうと思っていましたが、甘くはなかったです。責任の重さや名のない雑務の多さなど、体験してみないと分からないことが多いです。副会長で、この大変さを考えると、会長の執務などは、想像を遙かに超えるのではと思ってしまいます。歴代会長の先生方に改めて敬意を表します。

副会長として会務活動を半年間行ってきて、改めて感じたのは、日本弁理士会としての組織というものの難しさです。日本弁理士会の意思決定機関など組織としては、総会、執行役員会、監事会、常議員会などがあります。株式会社でいえば、総会が株主総会、執行役員会が取締役会、監事会、常議員会が監査役に相当すると思います。すなわち、重要事項や会則改定などの決議を総会が行い、総会の議案などを常議員会で審議し、日常の業務の意思決定を執行役員会が行い、

執行役員会の業務を監事会が監査するという仕組みになっています。

一方、多くの会員の先生方は、委員会や附属機関の委員として、日本弁理士会で活動して頂いております。ご存じの通り、これら委員会や附属機関は、会則・会令や、執行役員からの委嘱事項や諮問事項に基づいて、活動しております。株式会社でいえば、各従業員が所属する部や課などが、これらに相当すると思います。したがって、委員会や附属機関は、基本的に執行役員会の意思決定に基づいて、活動していくという構図になっていますが、執行役員会と各委員会などの間に軋轢が生じることがあります。

その原因の一つとして考えられるのは、任期です。ご存じの通り、執行役員会を構成する会長の任期が2年、副会長及び執行役員の任期が1年ですので、基本的には、2年で、その構成メンバーの殆どが交代になります。一方、委員会の任期は、1年ですが、多くの委員が継続して再任されますので、一部のメンバーが交代になりますが、大多数メンバーが残ることになります。そうしますと、毎年、通常行っていた委員会活動の一部が、新しくなった執行役員会の決定によってできなくなるということが生じることがあります。ある年の執行役員会が決定して開始した事業であっても、数年すれば、状況に変化が生じますので、その事業の価値が減少することがあり、そうすると、予算との関係で継続が難しくなることがあります。一方、委員会の活動を長年行っていると、その執行役員会の意思決定に不満を感じることもあるのだと思います。特に、ここ数年のコロナ渦によって状況が著しく変化しましたので、大きな軋轢が生じることがあるのだと思います。勿論、執行役員会のメンバーも各委員会での活動の意義な

どを十分に理解していないこともあります。そこはできるだけ理解できるように、委員会の意見を執行役員会に反映させるのが副会長の役割の一つです。

### 3. 引き際の美学

さて、話は、変わって、冒頭の「竜馬がゆく」の引用です。引用箇所は、大政奉還がなされた翌日に、竜馬たちが、西郷のいる薩摩藩邸に行き、竜馬が作成した新政府の案を西郷に見せたときの竜馬と西郷のやりとりです。この竜馬が作成した新政府案のメンバーには、竜馬の名前がなく、さらに竜馬が所属していた土佐藩も一人だけだったのです。それを見て、西郷は、驚いて冒頭のやり取りがあったのです。

「仕事というものは、全部をやってはいけない。八分まででいい。八分までが困難な道である。あとの二分はたれでも出来る。その二分は人にやらせて完成の功を譲ってしまう。それでなければ大事業というものはできない」

同じく、「竜馬がゆく」からの引用です。

私が「引き際」というものを初めて考えたのは、1980年、私が12歳のときです。世界の王貞治の引退というニュースが私の耳に飛び込んできたときです。その年の王さんの成績は、ホームランが30本、打率2割3分6厘。毎年のように50本近く打っていた王さんの成績からは物足りないものがあるかもしれませんが、リアルタイムで見ていた少年としては、「今年のホームラン王は、無理だったけど、来年こそは」と思っていましたので、衝撃でした。そして、王さんは、引退会見

で、「王貞治のバッティングが出来なくなったからです。ファンの皆さまが期待しているホームランが僕なりに打てなくなったからです。」と語りました。それから約10年後に読んだ「竜馬がゆく」で、益々「引き際」というものを考えさせられました。私は、30代の頃、50歳までに1億円を溜めて、弁理士を引退すると考えていました。

その後、法科大学院や司法修習などでその計画も難しくなりました。2012年の松井秀喜選手の引退会見で、松井選手は、「この決断を下した大きな原因は、今季3ヶ月しかありませんでしたが、初めてマイナーからスタートし、メジャーに昇格して最初は結果が出た。その後プレー機会をもらい、主軸を打たせてもらったにもかかわらず、結果が出なかった。それが一番大きな要因です」と語っていました。

王さんと松井選手の引退理由、同じなの？違うの？分かりません。「竜馬がゆく」での竜馬もそうです。本当に8割まで自分でやったから、残り2割を他人に譲るために辞めたの？自らの限界を感じていたのかも？などと考えます。

### 4. 結び

「引き際」、人生の間で、様々な場面で考えなければなりません。中学や高校での部活動は、簡単でした。卒業できれば、引退です。大人になってからは、難しいです。数年前、私が所属する南甲弁理士クラブの忘年会に100歳を迎える先生が出席しました。100歳を超えても、現役！素晴らしいなあと思いました。考えさせられます。

以上